

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(5)(HP 収載) ー最新アナログシステムでの試聴(5)ー

1. 始めに

前報(4)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、弦楽四重奏です。

TELEFUNKEN 6.42042AG

モーツアルト 弦楽四重奏曲第 22 番変ロ長調

弦楽四重奏曲第 23 番へ長調

アルバンベルグ弦楽四重奏団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

TELFUNKEN オリジナル盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、前報(3)と同じく TELFUNKEN オリジナル盤であり、同様に爽やかで優雅な演奏で、ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの改善を行ってきた成果が現れています。

ThorenTD124 の再生では、前報(3)と同じく、ディテールの再現では、LINN LP-12 に一步譲るとしても、ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入およびターンテーブルシートの交換などの効果で、爽やかに生き生きとした演奏を聴かせてくれます。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorenTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、LINN LP-12 と ThorenTD124 それぞれの味わいのある TELFUNKEN オリジナル盤の演奏が聴けました。

以上